



季語

季節を映すことばの世界



この教材の使い方

1

見て・ふれて・感じる

写真や実物、動画でも確かめてみましょう。身近な行事や食べ物の中にも、日本文化はたくさんあります。

2

「なぜ？」を考える

行事やしきたりには、それぞれ意味や願いがこめられています。由来を知ると、ぐっと面白くなります。

3

「やってみよう」で体験する

答えは30ページにあります。家族や地域の人に話を聞くのもおすすめです。地域によるちがいも楽しみましょう。



Ken (ケン)

日本の中学生。地元のお祭りが大好き。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。日本文化を勉強中。

もくじ

季語の入り口	3～4
四季の季語	5～8
季語のきまり	9
季語と暮らし	10～13
季語を楽しむ	14～15
見て・体験する	16～17
おさらいする	18～22
練習しよう	23～25
伝えてみよう	26～27
ふり返り	28～30

季語ってなに？

季語は、俳句などに使われる、季節を表すことばです。

季語とは、俳句や連句などで、季節を表すために使われることばのことです。

「桜」なら春、「蝉」なら夏というように、そのことば1つで、読む人に季節を感じさせるはたらきがあります。



季語の例

桜

蝉

紅葉

雪

七夕

お正月

どれも、聞いただけで季節が思いうかぶことばです。

ポイント

- 季語は、俳句の中で「いつのことか」を短いことばで伝える役わりをしています。
- 季語を知ると、短い詩の中に季節の広がりを感じられるようになります。

やってみよう

1. 「雪」ということばから思いうかぶ季節の風景を1つ書いてみよう。

ワンポイント 季語は俳句のルールというより、季節を伝える道具のようなものです。

書いて覚えよう

歳時記

歳時記は、季語を季節ごとにまとめた本です。

歳時記

さいじき / saijiki

季語を季節ごとに集め、意味や使い方をまとめた本

季題

きだい

歳時記の中で、季語を分類するときの見出しのことば

分類	内容の例
時候	季節や気候を表すことば
天文	空や気象に関することば
地理	山・川・海などに関することば
行事	祭りや年中行事に関することば
動物・植物	生きものや草花に関することば

ポイント

- 歳時記には、季語ごとに短い説明と、その季語を使った俳句の例がのっています。
- 俳句を作る人だけでなく、季節のことばを調べる辞典としても使われます。

やってみよう

- 歳時記があれば、好きな季節のページを開いて季語を1つ見つけてみよう。

書いて覚えよう

春の季語

春には、芽ぶきや出会いを感じさせる季語があります。

桜

春を代表する花。入学式のころに満開になる

春一番

その年はじめて吹く、強く暖かい南風

つくし

春に土から顔を出す、細長い植物

ポイント

- 春の季語には、寒さがゆるみ、生きものが動き出すごろの様子を表すものがあります。
- 入学式や卒業式など、学校の行事も春の季語として使われます。

やってみよう

1. 身のまわりで見つけた「春らしいもの」を1つ書こう。

書いて覚えよう

夏には、暑さや生き生きとした季語があります。

夏に鳴く昆虫の代表

夏の夜を彩る行事

夏祭りの金魚すくいでも親しまれる

- 夏の季語には、暑さそのものだけでなく、涼しさを感じさせることばも多くあります。
- 「風鈴」や「打ち水」のように、暑さをやわらげる工夫も季語になっています。

1. 夏を感じることを1つ思い出して書こう。

秋の季語

秋には、実りやさびしさを感じさせる季語があります。

紅葉

葉が赤や黄色に色づくこと

月見

満月を眺めて楽しむ秋の行事

秋刀魚

秋においしくなる魚

ポイント

- 秋の季語には、実りの季節らしい食べ物や、静かな夜を感じさせることばが多くあります。
- 同じ「実り」でも、地域によって代表的な食べ物はちがいます。

やってみよう

1. 秋に食べたくなるものを1つ書こう。

書いて覚えよう

冬の季語

冬には、寒さやあたたかさを感じさせる季語があります。

雪

冬を代表する天気

こたつ

家族で囲んであたたまる冬の道具

息白し

寒い朝、白く見える息のこと

ポイント

- 冬の季語には、寒さの厳しさとともに、家の中のあたたかさを感じさせることばもあります。
- 地域によって、雪の多さやこたつの使い方にちがいがあります。

やってみよう

1. 冬になると使いたくなる道具を1つ書こう。

書いて覚えよう

新年の季語・季重なり

新年は冬とは別あつかいで、季重なりにも気をつけます。

新年

しんねん

歳時記の中で、冬とは別に立てられる季節

季重なり

きがさなり

1つの俳句に季語が2つ以上入ってしまうこと

新年の季語の例

初日の出

門松

お雑煮

書き初め

お正月に関することばは、冬ではなく「新年」の季語として区別されます。

ポイント

- 新年が別あつかいになるのは、昔の暦で1年の始まりを特別に考えてきたためといわれています。
- 季重なりは絶対にさけるものではありませんが、初心者のうちは季語を1つにしぼると作りやすくなります。

やってみよう

1. 「雪」と「お正月」が同じ俳句に入ったら、季重なりになるか考えてみよう。

書いて覚えよう

年中行事の多くが、そのまま季語になっています。

10

季語と食べ物・季語と生きもの

食べ物や生きものにも、季節を感じさせる季語があります。

食べ物の季語

柏餅

端午の節句に食べる春～初夏の菓子

西瓜

夏に食べる代表的な果物

おでん

冬にあたたまる料理

生きものの季語

うぐいす

春に鳴く鳥

蚩

初夏の夜に光る昆虫

雁

秋に渡ってくる鳥

ポイント

- 旬の食べ物は、味だけでなく季節を伝えることばとしても大切にされてきました。
- 渡り鳥のように、季節ごとに姿を見せる生きものも季語になります。

やってみよう

1. 今の季節に美味しいと思う食べ物を1つ書こう。

書いて覚えよう

冬の初めに吹く冷たい風

秋に色づく葉

意外な季節の季語・季語の由来

季語の季節分けには、昔の暦の考え方や由来があります。

意外な季節の季語

「天の川」は七夕（7月）のことですが、歳時記では秋の季語とされています。もともとの暦では、7月が秋の始まりと考えられていたためです。

「麦秋（ばくしゅう）」は、漢字に「秋」とありますが、麦が実る初夏を表す夏の季語です。

ポイント

- 季語は、和歌や連歌の時代から、季節を短いことばで表す工夫として育まれてきたといわれています。
- 季語の季節は、今のカレンダーではなく、昔の暦の考え方をもとにしていることがあります。

やってみよう

1. 「意外だな」と思った季語を1つ書こう。

書いて覚えよう

季語は、俳句だけでなく手紙などにも生かされます。

桜のたよりが届くころ

季語に近いことばは、手紙のはじめのあいさつにもよく使われます。

- 季語を知っていると、季節の変化に自分から気づきやすくなります。
- 手紙やメールでも、季節のことをばを添えると、気持ちがより伝わります。

1. この季節に合う手紙のあいさつを1つ考えてみよう。

一般社団法人文化芸術支援協会 | 季語 個人の学習目的に限り利用できます（商用利用・再配布禁止）

季語を探そう・季語で俳句をつくる

季語を見つけて、俳句づくりに生かしてみましょう。

ポイント

- 歳時記にのっていることばだけでなく、身近な景色の中にも季節を感じさせるものがあります。
- 自分の地域ならではの季節のことばを見つけるのも、季語探しの楽しみ方の1つです。

季語で俳句をつくろう

五・七・五のリズムに、季語を1つ入れてつくります。例：桜さく 通学路にも 春が来た

やってみよう

1. 季語を1つ見つけて、それを使った五・七・五の俳句をつくってみよう。

書いて覚えよう

図書館などで実物を開いてみる

四季の景色を写真で見る

庭や公園で季節の変化を探す

- 写真だけでなく、実際の風や光、においからも季節を感じることができます。
- 同じ場所を季節ごとに見比べると、変化がよくわかります。

1. 写真集や図鑑で見つけた季語を1つ書こう。

1. 外に出て、今の季節を表すことばを声に出して言ってみよう。
2. 家族と、好きな季語について話してみよう。
3. 見つけた季語を使って、短い一文を書いてみよう。

- 季語を声に出すと、ことばと季節のつながりがより印象に残ります。

ワンポイント 俳句づくりに慣れないうちは、五・七・五にこだわりすぎなくても大丈夫です。

18

- 同じ「桜」でも、咲く時期は地域によって大きくちがいます。
- 雪国とそうでない地域では、冬の季語に対する感じ方も変わってきます。
- 「必ずこの時期にこう感じる」と決めつけず、地域ごとの感覚を大切にしましょう。

1. 自分の地域で、季節の訪れを感じるものを1つ書こう。

昔と今をくらべよう

季語の感じ方は、時代によっても少しずつ変わっています。

昔

自然の中の暮らし

旧暦を基準

今より1~2か月季節感がずれる

生活に直結

農作業や行事と強く結びついていた

今

新しい季節感も加わる

新暦を基準

カレンダーに合わせて感じる

新しい季語も

冷房やスマートフォンなど新しい季語も研究されている

ポイント

- 昔の季節感と今の季節感には、暦のちがいから少しずれがあります。
- 季語も、時代に合わせて少しずつ増え続けています。

やってみよう

1. 今の暮らしから新しい季語を考えるなら、何にしますか。 _____

書いて覚えよう

よくある疑問

季語についてのよくある疑問に答えます。



Emma

季語を入れないと俳句にならないの？



Ken

季語のない俳句は「無季俳句」って呼ばれて、それも認められているんだよ。

ポイント

- 季語を入れるのが基本ですが、季語のない俳句をつくる人たちもいます。
- 季語の季節が今の感覚と合わないと感じても、歳時記の分け方には昔からの理由があります。

やってみよう

1. 季語について、もっと知りたいと思ったことを1つ書こう。

書いて覚えよう

マナーと注意点

季語を使うときに気をつけたいことをまとめます。

ポイント

- 季語の季節は、今のカレンダーとずれることがあるので、歳時記で確かめましょう。
- 季重なりは間違いではありませんが、初心者の方は季語を1つにすると作りやすいです。
- 地域による季節感のちがいを、「まちがい」と決めつけないようにしましょう。

ワンポイント 季語選びに迷ったら、今いちばん心に残っている季節の景色から選ぶとよいでしょう。

やってみよう

1. これから俳句をつくる時、気をつけたいことを1つ書こう。

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきたことばを確認しよう。

季語のきほん

☐ 季語

季節を表すことば

☐ 歳時記

季語をまとめた本

☐ 季題

季語を分類する見出し

季語のきまり

☐ 新年

冬とは別の季節

☐ 季重なり

季語が2つ以上入ること

☐ 無季俳句

季語のない俳句

季語の分類

☐ 時候

季節や気候のことば

☐ 天文

空や気象のことば

季語と暮らし

☐ 旬

その季節においしい食材

☐ 行事の季語

祭りなど年中行事のことば

ワンポイント 覚えたことばに✓をつけよう。ことばを知ると、季節の見え方が変わります。

書いて覚えよう

● オ. 季語が2つ以上入ること

2. 「麦秋」の季節 → (秋 / 夏)

- | | | |
|--------------------------|---------------|-------------|
| ☐ | 季語の意味を説明できる | 季節を表すことば |
| ☐ | 四季の季語を1つずつ言える | 桜・蝉・紅葉・雪 など |
| ☐ | 季重なりの意味がわかる | 季語が2つ以上入ること |
| ☐ | 季語を使って一句つくった | 五・七・五のリズムで |

- ✓がつかなかったところは、もう一度そのページを読み返してみましょう。

家族や友だちに話してみよう

見つけた季語を、身近な人に伝えてみよう。

見つけた季語

季節

感じたこと

Ken の例

見つけた季語 紅葉／季節 秋／感じたこと 通学路の木が色づいていて、秋を感じた

ポイント

- 見つけた季語を話すと、相手も季節の変化に気づくきっかけになります。

書いて覚えよう

英語で紹介してみよう

季語のことを、やさしい英語で説明してみよう。

季語

kigo (season word)

俳句で季節を表すことば

俳句

haiku

五・七・五でつくる短い詩

A kigo is

My favorite kigo
is

Emma の例

A kigo is a word that shows the season in a haiku. / My favorite kigo is sakura, because it means spring.

ポイント

- 季語をそのまま英訳するより、意味を簡単に説明するほうが伝わりやすいです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ

季語の世界は、ここからどんどん広がります。

もっと知りたい人へ

歳時記で

季語をたくさん調べてみる

俳句の本で

好きな俳句を見つける

自然観察で

季節の変化を記録する

次のステップ

俳句

五・七・五で表す短い詩

短歌

五・七・五・七・七の詩

年中行事

季節ごとの行事を知る

ポイント

- この教材の次は「敬語」。ことばづかいの世界を、さらにくわしく学んでいきます。

書いて覚えよう

季語チャレンジ

教室の外でも、季語はすぐに見つけられます。

見つけよう

身のまわりで**季節を感じる**ことばを1つ
探す

作ってみよう

見つけた季語で**俳句**を1句つくる

伝えよう

つくった俳句を**家族や友だちに紹介**
する

こたえ

L28 歳時記→エ 季重なり→オ 新年→ア 無季俳句→イ 句→ウ 2.
秋／夏L33 (例) 季語とは、俳句などで季節を表すために使われること
ば。

書いて覚えよう

季語 (Season 9 | No.85)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができません。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。